

## SDGs の位置づけ



➢ 自然災害により迫る危機から自力での避難ができない弱者（避難行動要支援者）の被害削減。  
➢ 命をつなぐために最低限必要な衣食住が確保できない方への確実な資機材提供。



➢ あらゆるレベルの主体による災害リスク管理。  
➢ 災害リスクに対して人や経済損失をできる限り減らすための備えの充実。



➢ 災害時に混乱なく「避難」「救助」「生命維持」等の対応が取れる体制構築。

## 事業を進める上での課題・求めるアドバイス

各自主防災会や避難所等、さまざまなレベルでの現場でリーダーシップを発揮していただける人材の育成に努めてきており、避難所単位の全ての地区にて運営リーダーや防災士がいる状態になったが、これらの人材が各現場で活躍できていない部分もある。防災士や避難所運営リーダーからは、「自分たちは地域で何をしたらよいか。」「地域の避難所運営の訓練に参加したが、特にやれることが無かった。」との声も。

避難所自主防災会にて、防災士や避難所運営リーダーと現場のマッチングが上手く働いてない現状がある。また、防災士・運営リーダーの「危機感の醸成」は、個人内部に留まってしまい、地域全体に活用しようという方向に発展しない現状がある。

## 各評価者による具体的な対応策・提案

▶ 保育園や幼稚園、学校、育成会など、子どもたちが普段集まるような場所で「ジュニア防災士」のような取り組みを行うのが良いと考える。子どもたちを通じて、家庭での防災意識の高まりが期待出来るのではないかと。また、地域の避難所での防災キャンプを親子で実施するなど考えられる。

▶ 防災士や避難所運営リーダーと現場のマッチングが上手くいかない理由として、それぞれの立場が行うべき役割について、明確化されていないことが想定できるのではないかと。研修、資格があり、どのような役割を担っているのか、地域住民に周知が図られていないと想定される。また、現状防災士や避難所運営リーダーはボランティアベースで運用しているが、こうした役割を担う人間が、ボランティアでは十分なインセンティブを得られないのではないかと、という課題が想定される。

▶ リーダーになった人が上手くリーダーシップがとれていない現状があるため、運営リーダーの育成方法や手段、具体的な流れなどを改めて検証することで、運営リーダーの地域の課題解決等の意識醸成に繋げることが出来ると考える。

## コーディネーターによる意見のまとめ

▼ 運営主体と現場や地域住民間のマッチングについては、マッチングできていない理由について課題を抽出し、具体的に整理するのが望ましい。

▼ リーダーの役割が不明確であることや、リーダーの役割に対する住民の認知度不足等、現状の課題に関するバックデータを収集することが望ましい。